第 19 号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

仏説 無量寿経

十七願に

「設我得仏　十方世界無量諸仏
不悉咨嗟　称我名者　不取正覚」とある。

口語訳文にすれば「たとい　われ仏となるをえんとき　十方世界の無量の諸仏　ことごとく咨嗟して　わが名を称えずんば正覚を取らじ」となる。（岩波文庫）

これは阿弥陀仏が我が身を捨ててまでもして、わたしたち人間の「南無阿弥陀仏」をとなえることを願ってみえる言葉である。

生きるということは他を犠牲にすることである。人間は自分の生きるために努力はするが、財物を集めたりもするが、無限の生命を奪う上に成立している。一粒の米に命の尊さを思いもったいないと頭を下げることである。もったいないとは恐れおおいこと。ありがたいことと辞典にある。仏説とはこの深い精神の流れをいうのである。和讃にいわく

「弥陀大悲の誓願を　ふかく信ぜんひとはみな
ねてもさめてもへだてなく　南無阿弥陀仏をとなふべし」

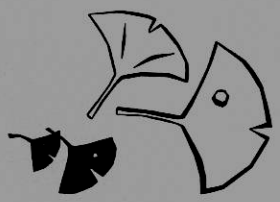
聖人のおことば

『真実信心の行人は、摂取不捨のゆへに正定聚の位に住す。このゆへに臨終まつことなし、来迎たのむことなし。信心の定まるとき、往生また定まるなり』（末燈鈔）

最近のマスコミはしきりに老人の孤独死を報じている。先ごろには有名女優さんのそうした出来事が載っていた。考えてみるに「死」は個人個人のことだ。家族・友人に囲まれて死んでゆくのは幸せなことのように見えるが、死んでゆく本人にとっては自分独りのことであり、誰も案内もしてくれないし、ついてきてくれる者もいない。死そのものには何びとも介入はできないのだ。

そこで聖人はいう。信心決定（けつじょう）を早くせよ。そうなれば阿弥陀仏まかせの人生がはじまる。

阿弥陀仏におまかせだから一切の心配事はなくなるのだ。安心そのもので一日一日を送る。へたなハカラヒあるべからずだ。



介護五章

（まさ女）

すねてみて 見栄意地通す 病夫婦

今の位置 微妙でちょっぴり 気に入って

病む夫の 時にやさしきを 悲しと思う

夫まきし　今妻がまく 掛け時計

血糖値　日替りメニュー こなしてる

里芋日記（八月十八日）

中島義光

夏本番。里芋が最も水を必要とする時期であり、かつ成長も著しい時期である。

今年は三カ所に作付けした。

最も出来の良いのは自宅の芋である。背丈が三㍍もあり、株分かれも非常に多い。ここ二～三年の中で最も出来が良い。次にお寺の駐車場の芋が一、五㍍ほどの高さになり、青々として良好。まだこれから大きくなりそう。最も出来の悪いのが田んぼの芋である。高さは一、五㍍ほどだが、茶枯れの葉が目立ち見すぼらしい。連作が原因。やはり良い里芋作りは、連作をせず、深く耕やし肥料と水をタップリ与えることが大切だ。

子育ても同じだ。何もかも愛情・仏の慈悲だと痛感した。

写真を撮って六十年

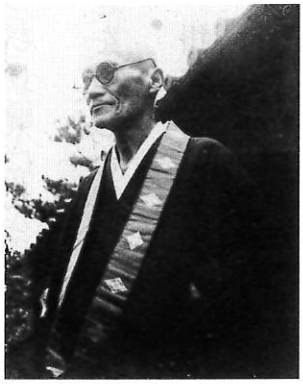
（伊藤和美）

六十年も前に写真機を給料とボーナスを合わせて買った。手に入れた日は、うれしくて夜も眠れなかった。翌日早速フィルムを入れた。何を撮ろうかと考えていた時、廣讃寺の御院主さんが月経（つきぎょう）においでになった。

私『御院主さん、写真機を買ったので写すよ』

御院主さん『そうか、そうか写真機を買ったか。きれいに撮ってくれよ』

と、私宅の庭で写した写真がこの一枚です。時は昭和二十五年。私は十七歳で最初の写真で宝物です。



その後、写真機は三台替えたが、今はビデオカメラで同朋会や老人会の旅行で皆さまを写して楽しんでいる。

※行事予定

十月十日(土)七時　同朋委員会・例会

十九日(月)二時～四時　学習会

二十八日(水)十時　二十八日講・女人講

十一月十四日(土)七時　同朋委員会・例会

十九日(木)二時～四時　学習会

二十八日(土)十時　二十八日講・女人講